

国語科学習指導案（古典）

対象学年 第2学年
実施場所 普通教室

1 単元名

史記を読む（「四面楚歌」）

2 単元の目標

- (1) 話の展開に即して内容を理解する力を身につける。（読む能力）
- (2) 歴史書の記述に基づいた出来事や人物の性格を読み取ることで、漢文や古典への興味・関心を深め、主体的な読書や研究に発展させる。（関心・意欲・態度）
- (3) 漢文の基本的な句法（詠嘆・疑問・否定）について理解を深め、応用力を養う。（知識・理解）

3 単元の評価規準

関心・意欲・態度	読む能力	知識・理解
① 中国の歴史書の記述に則って場面や登場人物の性格を読み取ることで、漢文や古典に対する興味・関心を深めている。 ② 人物の境遇や心境に関する学習を通して、主体的な読書を展開する積極的な意識がある。	① 正確に音読できるばかりでなく、話の内容に応じて工夫して朗読することができる。 ② 記述に基づいて出来事を順を追ってたどり、それぞれの場面における登場人物の境遇や心情を理解することができる。	① 漢文の基本的な構造や句法の理解に基づいて、文を正確に口語訳することができる。 ② 漢字の持つ意味に従って、文意を推測することができる。

4 指導と評価の計画（全4時間）

時間	各時間の目標	単元の評価規準	評価方法	学習活動
1	・「四面楚歌」にいたるまでの項羽と劉邦について理解を深める。 ・繰り返し音読し、正確に音読できるようにする。	読む能力①	行動の確認 行動の確認	・秦の咸陽を滅ぼし項羽と劉邦の確執が激化するまでの内容を理解する。 ・読みにくい語に注意しながら本文を繰り返し音読し、正確に音読できるようにする。
2	・正確な音読だけでなく、記述内容に応じた朗読ができるように努める。 ・前半部分を読んで、項羽が置かれた状況とその時の心境を読み取り理解する。	読む能力②	行動の確認 記述の確認	・会話文と地の文の違いを意識して音読（朗読）する。 ・本文の記述に則って、項羽が置かれた状況を正確に読み取り、そこにおける項羽の心境を考える。
3	・記述内容に即して朗読する。 ・後半部分を読んで状況	読む能力②	行動の確認 記述の確認	・漢詩と地の文の違いを意識して朗読する。 ・本文の記述に従って項羽とその

	を正確に把握し、項羽と虞、周囲の人々の心情を読み取る。			周囲の人々の境遇や心情を理解し、適切な言葉を使って表現する。
4	<ul style="list-style-type: none"> 話の内容に即して読み方を工夫して朗読する。 項羽と劉邦、その他の登場人物の性格や心情をまとめる。 	読む能力②	行動の確認 記述の確認	<ul style="list-style-type: none"> 登場人物の心情に留意しながら朗読する。 登場人物の性格やそれぞれの場面での心情に着目をして、400字程度の文章を書く。

※赤字で示した部分が IT 活用の場面である。(以下同じ)

5 本時の実際 (1 / 4)

(1) 本時の目標

(ア)「四面楚歌」までの項羽と劉邦の生き方、性格、また両軍の変遷などを理解し、「四面楚歌」のより深い理解に資する。

(イ)正確な音読ができるようになる。

(2) 指導と評価の実際

段階	時間	学習活動	指導の留意点	評価規準と評価の方法
導入	5分	本時の学習活動について理解する。	項羽と劉邦の出自や性格、進軍の様子などの概要を説明することを明示し、興味・関心を持たせる。	観察することによって、興味・関心の度合いを計る。
展開	30分	<p>パソコンとプロジェクター・スクリーンを用いて説明する。</p> <p>①項羽と劉邦の出自、性格を理解する。</p> <p>②秦を滅ぼすまで（鴻門之会まで）の両軍の動きを理解する。</p> <p>③鴻門之会以後の項羽の政治、劉邦の処遇や行動を理解する。</p> <p>④読書や研究への興味・関心を高める。</p>	<p>プレゼンテーションの資料（所々空欄にしたもの）を配付し、記入しながら説明を聞けるようにする。</p> <p>①出身地を確実に把握させる。また、両者の言葉や出自から性格を想像させ、発表させながら進める。</p> <p>②項羽と劉邦との確執の発端が理解しやすいように説明する。また、項羽軍が圧倒的な多勢であったことを理解させる。</p> <p>③項羽の残虐さや圧政を理解させ、項羽への反感が膨張する中で劉邦が力をつけてきたことを理解させる。</p> <p>④参考文献から読書案内・研究案内を行い、興味・関心の向上</p>	<p>①積極的に考えているか、また発表しようという姿勢が適切か観察し、記述を確認する。</p> <p>②発問によって興味・関心の度合いを計る。また資料の記述を確認する。</p> <p>③項羽の性格などを総合的に考えて理解しようとしているか観察する。また、資料の記述を確認する。</p>

			を図る。	
	10分	繰り返し音読し、正確に音読できるようになる。	斉読→部分読み→個人読みを行い、個々の能力に応じた音読ができるように配慮する。	声を出して音読しているか観察する。
まとめ	5分	次時の予告をし、予習の指示をする。	前半部分の書き下し文と口語訳を行い、内容（あらすじ）を把握しておくように指示する。	

6 IT活用の効果

- (1) 項羽と劉邦の性格や出自，進軍の状況などの膨大な情報を，視覚的に整理してとらえ直すことができる。
- (2) 登場人物を対比させて説明することが可能であり，また情報の整理や取捨選択が容易である。
- (3) 興味・関心を惹起し，さらに知識を深化させることができる。